

英語科学習指導案

単元名「Technology and Discoveries」

令和7年11月～12月 第1学年 指導者 儘田 憲子

I 単元の構想

1 単元観

本単元では、「セレンディピティ」（偶然の発見が偉大な発明を生み出すこと）を学び、偶然の発見を捉えるためには、日頃から偶然に備える姿勢をもち、問題について考え続けることの大切さを理解する。本文では、まず「セレンディピティ」という言葉の成り立ちを紹介し、偶然の発見から生まれた発明の例として、ふせんとペニシリンを取り上げている。ふせんは、アート・フライが生活の中で感じた不便さと、同僚が発明した弱い接着剤を結びつけ、試行錯誤を重ねることで完成させたものである。一方、ペニシリンは、アレクサンダー・フレミングが、培養皿に偶然落ちたカビによって細菌が死滅していることを発見し、この物質を「ペニシリン」と名付けた。「セレンディピティ」を経験した多くの人物は、深く幅広い知識をもち、偶然に備える姿勢を大切にしていた。彼らのように、身近なものに目を向け、問題について考え続けながら、新しい発想を受け入れる柔軟さをもつことが重要である。生徒はこの本文を通して、身近なものへの問題意識を高め、「セレンディピティ」から着想を得て提案する意識を養った上で、「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう～Innovation Awards in 研究協力校～」というプロジェクトに取り組む。

この活動は、まず生徒が日々の学校生活に目を向け、小さな疑問に自ら気付くことから始まる。気付いたことについて資料収集を行い、グループでの検討を通して、自分の考えを整理し、聞き手に分かりやすく伝えられるよう工夫して英語で発表することを目指す。発表では視覚資料（スライド）ポスターセッションを活用し、ジェスチャーや話し方を工夫するなど、聞き手に配慮した効果的な伝え方が求められる。発表会では、発表後の質疑応答を通して、生徒が「小さな気付きや疑問からの改善する提案になっているか」または「発想の転換からの提案になっているか」といった観点から意見交流をすることによって、検討・修正を行っていく。今回の言語活動を通して、生徒が自分の考えを聞き手が納得するように英語で伝える能力を育成したい。

2 研究との関わり

本研究では、英語科の授業を通して、研究協力校が掲げている「五常の教え」を基に非認知能力の育成を目指す。その実現に向けた具体的な手立てとして、「PBL型授業の単元展開」と「AARサイクル」の活用を挙げる。

「PBL型授業の単元展開」とは、英語科の授業において、生徒が単元の内容に即した目的・場面・状況が設定されたプロジェクトに主体的に取り組み、必要な情報を自ら収集・分析しながら、ペアやグループで協働的に考察・検討し、プロジェクトの達成に向けた成果物の作成や発表を通して、単元内容に関する理解と学びを深めていく単元展開を指す。このような単元展開によって、生徒はプロジェクトを自分事として捉え、試行錯誤を重ねながら成果発表に至ることができると考える。その過程により、「五常の教え」で目指す生徒の姿が観察された際に、教師がその姿を称賛し、価値付けていくことで、研究協力校の目指す非認知能力の育成を図ることができると考える。

「AARサイクル」とは、「見通し(Anticipation)・活動(Action)・振り返り(Reflection)」のプロセスを繰り返し行うことで、学びを深めていく学習の流れである。生徒は、PBL型授業におけるプロジェクトに主体的に取り組む中で、このサイクルを意識的に活用し、思考と行動を適宜調整・改善しながら、よりよい発表につなげていくことができる。またこのサイクルにおいても、「五常の教え」で目指す生徒の姿が観察された際に、教師がその姿を称賛することを通して、その行動を「五常の教え」に基づいた非認知能力として価値付けていくことができると考える。

これらの手立てを講じることで、英語科における「情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る能力」の育成に加えて、学びに向かう力、人間性等に関わる非認知能力の育成も目指す。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	聞き手に自分の提案を理解し、納得してもらえるように、「学校生活をさら	・語彙や文法の理解に個人差があり、学習内容の定着に支援を必要とする生徒がいる。

	に快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについての情報や考えを、調べたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のモデルを聞く際、具体的な例がないとイメージをつかみにくい生徒が一定数いる。 ・ペアやグループでの活動においては、自分の伝えたいことを形にしようとする姿勢が見られ、協働的に表現を工夫することができる生徒が多い。 ・仲間と協働して学び合う雰囲気があり、「話すこと」の言語活動にも積極的に取り組むことができる生徒が多い。
思考力、判断力、表現力等		
学びに向かう力、人間性等		

4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 ・「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについての情報や考えを、調べたり、読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについての情報や考えを、調べたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。

5 指導及び評価の計画（全 12 時間）

時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
1	<input type="checkbox"/> 単元の主題に関する教師のオーラルイントロダクションを聞き、理解する。 <input type="checkbox"/> 縮約版本文による内容（セレンディピティ）を理解する。 <input type="checkbox"/> 単元のプロジェクトを理解する。	○			<input type="checkbox"/> 縮約版本文の内容（セレンディピティ）を理解している。 <観察・ワークシート（知）>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>[単元のプロジェクト] 「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう ～Innovation Awards in 研究協力校～」</p> </div>					
2	<input type="checkbox"/> 縮約版本文を読むことで得た知識や情報を基に言語活動を行う。（リテリング活動）		○	○	<input type="checkbox"/> 読むことで得た知識や情報を基にリテリング活動をしている。 <観察（思）・ワークシート（態）>

3	<input type="checkbox"/> 本文内容を理解する。	●		●本文の内容（ふせんの誕生）を理解している。 ＜観察・ワークシート（知）＞
4	<input type="checkbox"/> 本文内容を理解する。	●		●本文の内容（ペニシリン・まとめ）を理解している。 ＜観察・ワークシート（知）＞
5	<input type="checkbox"/> 本文を読むことで得た知識や情報を基に言語活動を行う。（役割のあるリテリング活動）		○ ○	○読むことで得た知識や情報を基に役割のあるリテリング活動をしている。 ＜観察（思）・ワークシート（態）＞
6	<input type="checkbox"/> セレンディピティに関することを書籍やICTを活用して個人で調べる。 <input type="checkbox"/> 調べたことを用いて個人でテーマを考える。		○	○書籍やICTを活用して情報を収集し、自分の提案に生かそうと検討している。 ＜観察・ワークシート（思）＞
7	<input type="checkbox"/> 調べたことを用いて個人でテーマを考える。 <input type="checkbox"/> テーマごとにグループに分かれる。		○ ○	○「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについて、グループで提案したい内容や伝え方について、検討している。 ＜観察・ワークシート（思・態）＞
8	<input type="checkbox"/> グループで発表準備と発表練習を行う。 <input type="checkbox"/> グループで検討したことを振り返る。	○	○	○中間発表会に向けて、グループで発表準備や発表練習を行っている。 ＜観察・ワークシート（知・思）＞
9	<input type="checkbox"/> 中間発表会を行う。 <input type="checkbox"/> 他のグループの発表を聞き、振り返る。		○ ○	○「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについて聞き手が理解できるように内容や伝え方を工夫して話している。 ＜観察・ワークシート（思・態）＞
10	<input type="checkbox"/> 中間発表会を振り返り、修正・発表練習を行う。	○	○	○中間発表会を振り返り、グループで修正・発表練習をしている。 ＜観察・ワークシート（知・思）＞
11	<input type="checkbox"/> グループで発表練習を行う。 <input type="checkbox"/> グループで検討したことを振り返る。	○	○	○クラス発表会に向けて、グループで発表練習を行っている。 ＜観察・ワークシート（知・思）＞

12	<input type="checkbox"/> クラス発表会を行う。 <input type="checkbox"/> 代表グループを選ぶ。 <input type="checkbox"/> 振り返る。		● ●	● 「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについて聞き手が理解できるように内容や伝え方を工夫して話している。 <観察・ワークシート（思・態）>
----	--	--	-----	--

II 第5時の学習

1 ねらい 発明者・発見者になりきり、ふせんとペニシリンの発明・発見について、相手に英語で伝えることができる。

2 展開 (55分)

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 学習課題を理解する。 本文（Scene2、Scene3）を音読する。（7分） S：音読をして、ふせんとペニシリンの内容を確認しよう。 S：読めないところがないか確認しよう。	◎本時の流れを説明し、役割のあるリテリング活動に取り組めるよう見通しをもつことができるようにする。（A見通し） ○音読後に、座席の列ごとに「ふせんの発明者」と「ペニシリンの発見者」の役割を指示する。
2 前後の相手に日本語で伝えたいことを話す。（3分） 分担された役割について伝えたいことをまとめる。（10分）	○本文の中にあるキーワードを活用するように伝える。 ○話す時間は一人当たり2分を目標とする。
3 前後の相手と一緒にまとめたことを確認しリテリング活動を行う。（5分） 伝えられなかったところを修正する。（3分） もう一度前後の相手とリテリング活動を行う。（5分） S：伝える内容が同じ子と伝える内容について確認しよう。 S：なかなか内容が伝えられなかったな。○さんの伝え方を参考にしよう。	◎限られた時間の中で、聞き手が理解できるように発明・発見したことが話せるようにする。（A活動） ○伝える内容が同じ仲間同士で、内容が理解できているかを確認できるようにする。 ◎1回目のリテリング活動を振り返り、伝える内容を修正する。（R振り返り）
4 発明者・発見者になりきり、隣の相手とリテリング活動を行う。（5分） 伝えられなかったことを修正する。（3分） 相手を変えて、もう一度リテリング活動を行う。（5分） さらに相手を変えて、もう一度リテリング活動を行う。（5分） 本時を振り返る。（4分） S：伝えることはたくさんあり、難しいが、工夫して伝えることができた。	◎限られた時間の中で、聞き手が理解できるように発明・発見したことが話せるようにする。（A活動） ◎リテリング活動を通して、できたこととできなかったことを振り返り、次につなげる。（R振り返り） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 読むことで得た知識や情報を基に役割のあるリテリング活動をしている。 <観察（思）・ワークシート（態）> </div>

Ⅲ 第12時の学習

- 1 ねらい 学校生活をさらに快適に過ごせるように、研究協力校を改善する提案をする。
- 2 展開 (55分)

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 発表に関する確認事項を聞く。(5分) S: 発表時間を意識しよう。 S: 提案してくれることをしっかりと聞き、質問できるようにしよう。	◎限られた時間の中で効果的に発表する。 (A見通し) ○1グループの発表時間は3分で、質疑応答は2分であることを伝える。
2 グループで発表の確認をする。(5分)	○役割分担を確認できるようにする。
3 グループ発表をする。 Innovation Awards in 研究協力校 (40分) それぞれのグループが全員の前で発表する。 (1グループ3分) 発表に関する質問をする。(2分) S: 相手を意識して発表ができた。	◎限られた時間の中で、聞き手を説得できる発表ができるようにする。(A活動) ○発表する人、スライドを操作する人(英語で質問をする人)、質問に対して答える人と分担し、英語を話す機会を設ける。
4 どのグループの提案がよかったか投票する。 本時を振り返る。(5分) S: ○班の提案発表を聞いて、改善する提案が分かりやすく学校生活がよくなるので実践してほしい。	◎今回の活動でよかった点と改善すべき点を明確にすることで、次回の活動につなげられるようにする。(R振り返り) <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 「学校生活をさらに快適に過ごせるように研究協力校を改善する提案をしよう」というプロジェクトについて聞き手が理解できるように内容や伝え方を工夫して話している。 <観察・ワークシート(思・態)> </div>

「五常の教え」

- 仁: 思いやりの心
- 義: 不正を憎む心
- 礼: 他人を敬う心
- 智: 善悪を判断する心
- 信: 誠実な心